

# 中一 国語科通信

第6号  
平成29年12月21日  
国語科1年担当  
日高・平川・篠田



新品の手帳の一月まず開き  
子の誕生日を赤で囲みぬ

コラムマラソン 第六回  
「ユウキ 100%」

平川兼利

## 第二回「獅子王賞」

### 「本の帯」コンテスト

二期期は、かなり長い時間をかけて『星の花が降るころに』を学習しました。そして、久しぶりの発展学習として「続編を書いてみよう」ということで最初に渡した原稿用紙が一人二枚。それなのに、提出されたものは……!!! 一番多い人でなんと十一枚! なんとという筆力。我々教科担三人も、その意欲に驚いています。

今後の流れとしては、①自分の書いた作品の「帯」を作る②各クラスで「帯」のみを見て、読んでみたいと思った作品に投票する③各クラス上位三作品を合わせ、計九作品から大賞一点を投票にて選出④選出された大賞作品とノミネートされた八作品は、製本の上、「中一 国語科出版」より出版されます(もちろん校内のみ!)

またこれとは別の流れとして、最初に作った帯を、きれいな色紙で作って直してもらいます。その際はシールやマスキングテープを貼ったり、絵を描いたり切り抜いた

十二月の「百字の獅子」。テーマは「たつ」「赤」「誕生日」でした。今回も秀作揃い!

(つたつ)

「たつの木目に……」

一組 Aさん

私の家にあるたつの木の部分に、木目が人の顔のようになっているところがある。これは、私が小さい頃からの怖いものの一つだ。最近では、小学三年生と六歳の妹達もその木目が気になり出していて皆が怖がっている。

◇最近の新しい住宅では見る機会も少なくくなりましたが、昭和時代を過ごした私たちはそんな「化け物」に囲まれて生活していましたよ。

り、自由な発想で楽しんでください。世界に一つだけの自分だけの帯を、冬休みの間に作り上げてみてくださいね。

教科担一同、

めちやめちや  
楽しみに待っています!



(赤)  
「見たくない『赤』」

二組 N君

今の時期は期末テストが終了し、テストが次々と返却されるので、赤を多く見る。返却されるテストには、赤い丸と赤いピンがある。テストは、喜びの赤と悲しい赤を届けるが、願いが叶うのならば悲しい赤は見たくない。

◇十二月の「赤」といえばクリスマスが王道ですが、期末テストの赤ペンの「赤」という発想が面白いですね。課題テストは「喜びの赤」でいっぱいにしてくださいね。

(誕生日)  
「僕にとっての良い三週間」

三組 T君

毎年私には十二月の十八日から良い日が一週間おきにやってくる。まず最初に私の誕生日の十八日から始まって、二十五日はクリスマスで、そして最後は一月一日にある正月だ。この三週間はいつでも必ずとも待ち遠しい。

◇楽しい行事が目白押しですね。その時期を待つワクワクする気持ちが最後の「いつも必ずとも」という言葉に表れています。

先日、家の近くの交番から妻の携帯電話に連絡が入り、「平川〇〇くんのお母さまで

すか?」と問われ、「息子に何かあったのか!」と、妻の脳裏に緊張が走ったそうです。

実際の用件は、道で拾った五百円玉を息子が交番に届けたので、保護者である妻に届を書いてほしい、といった内容だったそう。私ほっと胸をなでおろしました。

さて、五百円玉が届けられるまでの経緯ですが、次の通りです。①登校途中に五百円玉を拾う。②登校班長のお兄ちゃんにどうすべきか尋ねる。③お兄ちゃんの勧めで担任の先生に相談する。④先生の勧めで交番に届ける。⑤放課後学校の帰りに交番に立ち寄る。——といった感じでした。たったこれだけのことで、小学生なのに、勇気をふりしぼった行動の連続だったのでないかと思えます。

正しいことをするには、勇気がいります。お天道様が見てるなんて、今の子供たちはピンとこないでしょうから、勇気を出すしありませんね。

「義をみてせざるは男なきなり(正しいとわかっていて、それをやらないのは、勇気がないからだ)」

もうすぐ新しい年を迎えます。来年も「正しく確かな判断力」を持って「勇気ある行動」をとり、これまで以上に素晴らしい学年になってくれることを期待します。